

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会

二十六夜山－月待ち信仰の山－

道志二十六夜山(赤岩展望台から)



3月中旬、二十六夜山(1297m)に出かけた。昔、旧暦の正月と7月の二十六日の夜に、人々が集まって月の出を待って願をかけた「月待ち信仰」の山である。道志山塊には秋山と道志の二つの二十六夜山があり、今回登ったのは道志二十六夜山である。

コースは今倉山(1470m)から縦走して二十六夜山に至る経路とした。

10時、都留駅からタクシーに乗り合わせて到着した道坂トンネル入口からいきなり急な登りが始まる。15分程で御正体山へのルートをや右に分ける稜線に出る。左にコースを取って雑木林の中の笹の道を30分程登り、やや開けたピークに出て一息入れた。

御正体山と富士山(今倉山手前から)



振り返ると御正体山の後ろに富士山が高々とそびえ、西には南アルプスが白皚々と連なって見えた。

後はブナ林の広い尾根道をつめ、11時15分今倉山到着。積雪約

10cm。樹林に覆われた静かな山頂である。

アイゼンを着けて主稜線を西に向かう。ゆるい登り降りを繰り返して、今倉山西峰、西ヶ原と過ぎ、12時15分赤岩展望台に到着して大休止とした。

ここの展望は正に360度。北に奥秩父、東に道志、丹沢、南に富士、西に南アルプス。遮るものもない大展望を楽しみながらの昼食休憩だった。

昼食後も単調な登り降りを繰り返して、やっと13時50分、二十六夜山山頂到着。「廿六夜」と刻まれた古びた石碑に迎えられた。既に午後のモヤが上がってきており、残念ながら眺望は今一だった。

下山は北に向かう急な尾根筋を下る。この時期の北面は

50～60cmの積雪が残っているが、幸い雪面が固く締まっており、アイゼンを効かせてバンバン下った。一気に標高差300m程下りた後は、尾根筋を離れてジグザグ道を急降下。沢底に着いた後は、矢多沢をペンキの標識に従って、右に左に渡り返ししながらどんどん下り、15時半、戸沢集落に到着した。お目当てはもちろん、集落の外れにある都留市営の温泉「芭蕉月待ちの湯」である。

二十六夜山頂



赤岩展望台から眺める南アルプス

